

“認知症診断ロボットの研究”が大川情報通信基金の研究助成に採択！！

工学研究科情報工学コースの小林透教授が申請していた「研究テーマ：一人暮らし高齢者向け会話型認知症自動診断ロボットの研究」が、公益財団法人、大川情報通信基金から2017年度の研究助成を受けることに決定しました！

本年度は、277件の応募の中から、25件の助成対象となったとのこと。採択率が9%という狭き門をみごと突破しました！

本研究は、高齢者とロボットとの日常会話の中で、認知症の診断を人工知能が行い、異常があれば、SNSを活用してケアマネージャ等へ通知するというものです。これにより、一人暮らしの高齢者が知らず知らずに認知症を発症し、周囲が気づいたときには、手遅れになってしまうことを防止します。

2017年度の研究助成贈呈式は、2018年3月7日に、ANA インターコンチネンタルホテル東京にて、開催される予定で、共同研究者の荒井助教、田中特任研究員とともに、参加する予定です。

公益財団法人、大川情報通信基金 研究助成対象者発表 HP：

http://www.okawa-foundation.or.jp/activities/research_grant/list.html



小林透 教授

2017年11月7日

長崎大学
大学院 工学研究科
教授 小林 透様

公益財団法人 大川情報通信基金
専務理事 松本 卓十

2017年度研究助成決定について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は当財団の2017年度研究助成にご応募いただき、誠にありがとうございました。

本年度は応募総数277件と多数のご応募をいただき、当財団の審査委員会において、客観的かつ慎重に審査を進めてまいりました結果、貴殿の研究を含む25件が助成対象に決定されましたので通知申し上げます。

つきましては、別紙の通り、2017年度の研究助成贈呈式を大川賞・大川出版賞贈呈式と併せて、2018年3月7日（水）にANA インターコンチネンタルホテル東京にて開催を予定しております。当財団では、この贈呈式を、研究助成をお受け頂く方と親しく交流をもち、相互の理解と協力のもと研究活動の一層の発展を祈念するとともに、財団の活動を社会的なものにしていく重要な機会と位置づけしておりますので、万障お繰り合わせの上、必ずご出席いただきませうようお願い申し上げます。

ご都合によりどうしても申請者ご本人のご出席が難しい場合は、代理の方にご出席を賜りたく存じます（代理出席の場合も交通費（宿泊費）を支給いたします）。

なお、贈呈式にはどなたでも自由にご参加いただけますので、共同研究者、指導学生、ご家族等と一緒に出席を希望される方がいらっしゃいましたら、その旨ご連絡ください。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 研究テーマ：一人暮らし高齢者向け会話型認知症自動診断ロボットの研究

採択通知